



ル一
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2024年1月7日

No. 116

主があなたを祝福し、あなたをまもられるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし／あなたに恵みをあたえられるように。
主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。

民数記6章24-26節・新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

行って、あなたも同じようにしなさい。

ルカによる福音書10章37節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



第一の朗読でお読みした、民数記 6 章 22 節以下は、イスラエルの民が荒野の旅を前にして、主なる神が告げられた祝福の言葉です。「聖書略（表紙参照）」

お気づきのかたもおられると思いますが、この祝福の言葉は、私たちが毎週礼拝の終わりにいただく、主の祝福の言葉になっています。聖書を開くと、祝福の言葉は数あるわけですが、ルターはそれらの中から、この言葉こそ礼拝における祝福の言葉として用いるにふさわしいとしているそうです。

私たちが採用している、“青式文”が採用されるにあたり、「守られます」という言い切り型が加えられるようになりました。その理由は、ヘブライ人の思想に由来します。日本語に訳しますと、どうしても「守られますように」となり、より古い訳ではそれに「願わくば」と冒頭にあったのです。ところが、ヘブライ人にとって「祈り」は、祈った瞬間に実現したと理解されたというのです。民数記にみる祝福の言葉はヘブライ語になりますが、それをギリシャ語に訳した聖書によりますと、「守られますように」と訳されている部分は、ギリシャ語特有のアオリストという時制になっています。これは辞書の説明に「ある事実が過去において一応片づいてしまったものとしてあらわす時制」とありました。つまり「守られた」そして今も「守られている」、すでに祝福を受け、引き続きその祝福のうちにあることを言い表しているのです。

旧約聖書によれば、この祝福の言葉を受けて、すでに祝福された者として歩み始めたイスラエルの民でしたが、その旅は想像以上に

厳しく、長く、辛いものでした。最終的に 40 年に及ぶ旅の終わりには、エジプトから民を導き出した、指導者モーセも約束の地に入ることは許されませんでした。しかし、申命記 8 章 2-3 節に次のように言われていることは、厳しく思われた 40 年に及ぶ旅は、確かに祝福を受けたものであったことを語っているとと言えるでしょう。「聖書略」

40 年の旅は苦しいものであり、祝福を確信するには困難に思われましたが、主が民を苦しめて試されたのは、神の御心であったというのです。苦しみに遭わないことを、祝福と結びつけて考える私たちがいます。しかし聖書は、苦しみにさえ神の御心があり、だとするなら苦しみの中でさえ、常に神の祝福のうちに生かされているということを教えているのです。こうして「守られます」「恵みを与えられます」「平安を賜ります」との祝福の言葉がすべて、すでに与えられているとの確信へと私たちを導くのです。

新しい一年の始まりにあって、私たちは神の祝福をいただきます。かつて同じ祝福を受けて旅に出た、イスラエルの民が苦しみや困難、恐れの中に置かれたように、私たちの一年の歩みにも、苦しみや悲しみ、恐れ、不安がつきまとうことでしょう。しかしそれは、私たちが神の祝福のうちにいないということではないのです。たとえ困難の中に置かれることがあったとしても、その困難を通して、神が意味を与え、間違いなく祝福された日々におかれるということなのです。

新しい一年の歩みも、主の祝福のうちに導かれますように。（主の命名）

○野姉を想う

○藤○子

2007年、7月右足、10月右手を思わぬ骨折をしてしまい、電車で溝の口から渋谷へ、そして山手線に乗り換えて新大久保の東京教会への電車を通うのが不安になり、何処か近くの教会はと教会手帳で調べると藤が丘教会が目に入り、電話で場所を聞き11月25日教会の前に。入り口で中の様子を伺いウロウロしていると、笑顔で会釈して招き入れて下さったのが○野姉でした。右手包帯のまま字が書けず海外派遣の時に使った名刺を出し自己紹介すると、小副川牧師共々中へ案内された。その日から16年、こちらでお世話になっていますが、教会遍歴は長くても新参者で緊張している私に「東京教会はどうでしたか」とかいろいろ話して下さい、緊張をほぐし温かいぬくもりを下さった。話し上手で聞き上手。私の話をぐいぐい引き出し時には代弁して下さい。圧迫骨折をしたとき、ご自分の体のころもあったでしょうに、電話で安否を気遣って下さった。

五体満足が不満足となり、コロナもあって礼拝欠席がおおくなり、なかなかお会いでき



ませんでした。訃報の連絡を受けた時「エーッ！」何も知らなかった私は驚くばかりでした。バザーの時、コンクリートの上に敷物を敷き、立ったり座ったりして衣類を売っていた姿が、目の焼きついています。会えば「どうですか」といた外の表情を見て安堵してました。本音で語り合えた星野姉の姿が見えなくなるのは寂しく、悲しさひとしおです。

○野○江様へ

江○○子

30年前に転勤先から戻り、三女の幼稚園探しを始めた時、雪谷ルーテル幼稚園の名前を見つけ、すぐに三女と幼稚園の面接に行きました。初めての幼稚園に興奮した娘と緊張した私を迎えて下さったのが○江先生でした。「こんにちは。お名前は？」と優しく言われた事を今でも覚えています。幼稚園年少組に入った娘は毎日幼稚園に行くのが楽しみで、毎朝、幼稚園の門の所で「○江先生、おはようございます。」と挨拶をし、○江先生と握手をしたり、周囲を跳ね回ったり、時には○野家の愛犬「バウちゃん」のいる牧師館に行きました。

たくさんの思い出がよみがえります。ルーテル幼稚園には2年間しか通園しませんでした。長女も次女もSに通い、英語を教えて頂きました。

母が亡くなり、○野牧師に葬儀の司式をして頂いた事から、藤が丘教会を紹介されて、2003年全聖徒主日に初めて藤が丘教会を訪れました。知り合いも○野牧師ご夫妻だけの私がポツンとしないように気を遣って頂き、感謝しかありません。○江先生に導かれたからこそ、私は神様と出会い、重富先生や信徒の皆様にも出会い、信仰の扉を開き、受洗しました。辛い時、心が折れそうな時も寄り添って下さり、励まされました。小さな声に耳を

傾け、辛い思いや悩みのある方のもとへ行き、お話しを聞いてくださり、心をほぐして下さる方でした。

時々のお電話では厳しいご意見も頂きましたが、最後は懐かしい幼稚園の事、家族の事を話して、二人で大笑いをしたことを思い出します。

6月末の春の女性会の集いにも元気に出席し、サバの神学校のお話しもされていたお姿が今、目に浮かびます。とっても悲しく、寂

しいです。

もう一度、一緒に藤が丘教会の礼拝に出席したかったです。長い間、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

今頃は、神様のもとで先に召された兄弟姉妹と共に積もるお話しをなさっている事と思います。

ご家族の上に主の慰めがありますように。

わが同胞（はらから）」

尾○松○

ルターを最も初期に日本へ紹介した人物に内村鑑三（1861-1930）がいる（1）。

その内村に「初夢」という文章がある（2）。日本を中心にまとめられた、そのストーリーはしばらくの間不人気であったが、こんにち国際社会におけるわが国の立ち位置や期待される役割を考えると、「初夢」をもう一度見直す必要を感じる。

1549年、フランシスコ・ザビエルが宣教目的で来日したが、日本を選んだ理由は、マラッカ（マレー半島）で会った日本青年の才能であったと言われている。

ザビエルは青年を聖パウロ学院に送り込んで教理を学ばせ、準備万端ととのえて日本本土に上陸した。

時代が下って明治に入り、日露戦争の勝利は、日本国民に大きな驕りを生じさせた。

1941年に始まる「アジア・太平洋戦争」では、近隣諸国に甚大な被害を与えた。

戦時下では、多くの青少年が兵士として戦場に送り出され、敗戦後は海外から侵略者の烙印を押された。

わが家では兄が戦死、その知らせに泣き崩れる母の姿を覚えている。

日本の侵略に遭った隣国の人々の悲しみは

どれ程のものであったか、計り知れないものを感じる。

いま、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスの紛争で双方に多くの死者が出て、双方の家族も同じ悲しみに見舞われている。今次の大戦によってわが日本国民はたつぷりと冷や水を浴びせられ、一億総懺悔となった。

一方、敗戦直後日本の統治を任されたマッカーサー元帥は解任された後、米国上下両院合同会議の演説で、

「私は日本国民ほど穏やかで、秩序正しくかつ勤勉な国民を他に知らない。人類の発展において、それほど建設的な意欲、高い希望をもった国民を他に知らない」（3）と、述べている。

退任されたもと元帥にとって、もはや日本国民にへつらう必要などないのだから、この言葉は彼の本心から出たものであろう。そうだとすれば、こんにち「人類の発展に建設的な意欲」を国際社会に向かって発揮するなら、内村鑑三の「初夢」も「正夢」に変換される時代となるであろう。

注釈（1）江口再起『ルターと宗教改革 500年』148頁 2017年

（2）『聖書之研究』1907年1月号『一日一生』3頁 教文館

（3）森恭三編『マッカーサー元帥の回顧』朝日新聞社 1964年5月29日

40周年記念礼拝—江口再起先生をお招きして

○山○子

昨年の12月3日(日)は藤が丘教会の誕生日でした。

1983年のアドベント第一主日に、ここ、藤が丘で初めての礼拝を守った私たちの教会は、今年でちょうど40歳。その間3人の牧師に導かれてきましたが、この日は、初代の牧師の江口再起先生をお招きして、40周年の感謝の記念礼拝が恵みのうちに執り行われました。

礼拝では、江口先生の(懐かしい)口調による「目をさまし、喜びをもって待つ」と題してお説教をいただき、来るべき喜びの時間を、耳を澄まし、心を静かに穏やかに準備し、へりくだった心で、本当の喜びであるイエス様による救いを待つということ、み言葉をとおして教えていただきました。

ここしばらくお休みしていた聖歌隊も、この日、コロナ後初めての奉唱をし、礼拝の後

クリスマスコンサート報告 実行委員会

12月9日、4年ぶりのクリスマスコンサートが開催されました。

毎年恒例のクリスマスコンサートがコロナ禍のために中止となり、多くの方々が待ち望んでいたコンサート当日は暖かい日差しのある1日でした。

今年度はメリーフォーと言う4人の女性のグループがいらして下さいました。

何とも言っても4人の皆様の歌声は美しく、時には迫力もあり、やはり、ライブで聞くといつの間にか歌に引き込まれていました。選曲も知っている曲、懐かしい曲も多く、色々なジャンルにわかれていて、とても楽しめました。クリスマスの曲は共に歌い、アンコールのロックは手拍子、足拍子で大変

奏には、○田○さん作詞作曲の「藤が丘の坂」を全員で歌い、恵まれた礼拝に感謝と喜びを新たに感じました。

礼拝後は、江口先生・○子さんご夫妻を囲んで、たくさんの方の参加で感謝の懇談会が開かれました。田○さんの進行で、昼食後は、「江口先生の人となり」を知る軽い楽しい？クイズなどのプログラムもあり、また創立当初を知る何人かのかたに、教会初期の若さ(?)とエネルギーのある様子や先生の思い出などをお話いただき、江口先生も飄々とした(でもクスッと笑える)コメントを挟んでくださったりで、和やかで楽しい時間となりました。

これからは、41年目に入り、今まで育ててくださった神さま、牧会してくださった歴代の牧師先生のもとで大きく成長したこの教会を感謝して、みんなで大事にして神さまのみ心を表す存在になるよう、祈りたいと思います。

盛り上がりました。

終了後に4人の皆様が玄関ドアの所でお客様をお見送りしている姿をみて、心暖まるコンサートだったと実感いたしました。

メリーフォーの皆様、素敵なコンサート、ありがとうございました。また、皆様とはどこかのコンサート会場でお会いできる事を楽しみにしております。

最後にクリスマスコンサート献金をして頂きました皆様には心より感謝申し上げます。



●女性会だより

12月17日 14名出席
司会、祈り 永○姉
讃美歌 317番

1 聖書の学び

マタイによる福音書 4章18節
イエス様の眼差しのある限り、いつもあなたを見ている。私達の日常に合わせてるようにイエス様は来て下さいました。私達と一緒にいて下さるために。

2 女性会総会

①クリスマス献金について

献金先の変更により、3万円をガザ地区の病院支援のため、ルーテル連帯献金に送金することを確認。

②世界祈禱日について

3月1日。ルーテル教会が当番。人数制限があるのでYouTubeで配信。詳細は改めてお知らせする。ポスターを掲示する。式文は例年通り購入し、配布する。パレスチナのために祈る。

③連盟総大会に向けて

藤が丘教会女性会として議案の提案をした。

④2024年度女性会役員について

会長→○内姉
副会長及び記録→江○
会計→小○姉、田○○るみ姉

次回例会は2024年1月21日12時から（昼食は各自の判断にまかせる。）

今月、 受洗記念日を迎えた方々

1日 間○○允兄、○田真○兄、
倉○○姉、○井○司兄
8日 田○（金）○兄
11日 ○田○貴子姉、○田○志兄
12日 ○嘉○実兄
17日 ○野○苑姉、
吉○○子姉
おめでとう
ございます。



わたしの隣人に対して、一人のキリストになる。
「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書10章37節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



●牧師室より



はじめに、甚大な被害を受けられたすべての方々に、主の御守りがありますようにお祈りいたします。

宣教40年を機に、地域の方々のために仕える教会として歩み始めた私たちは、41年目の今年「わたしの隣人に対して、一人のキリストになる」という主題を、掲げて歩みたいと思います。これは『キリスト者の自由』第27項で、ルターが書いていることから来ています。主題聖句はルカ10章になりますが、主イエスは「隣人になったか」を問われます。助けを必要とする方々の「隣人となる」教会として歩んでまいりましょう。

キリストが、皆さんの隣人となってくださったのですから。（佐藤）



スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。